

勅令第三万六千九百三

正月
元日

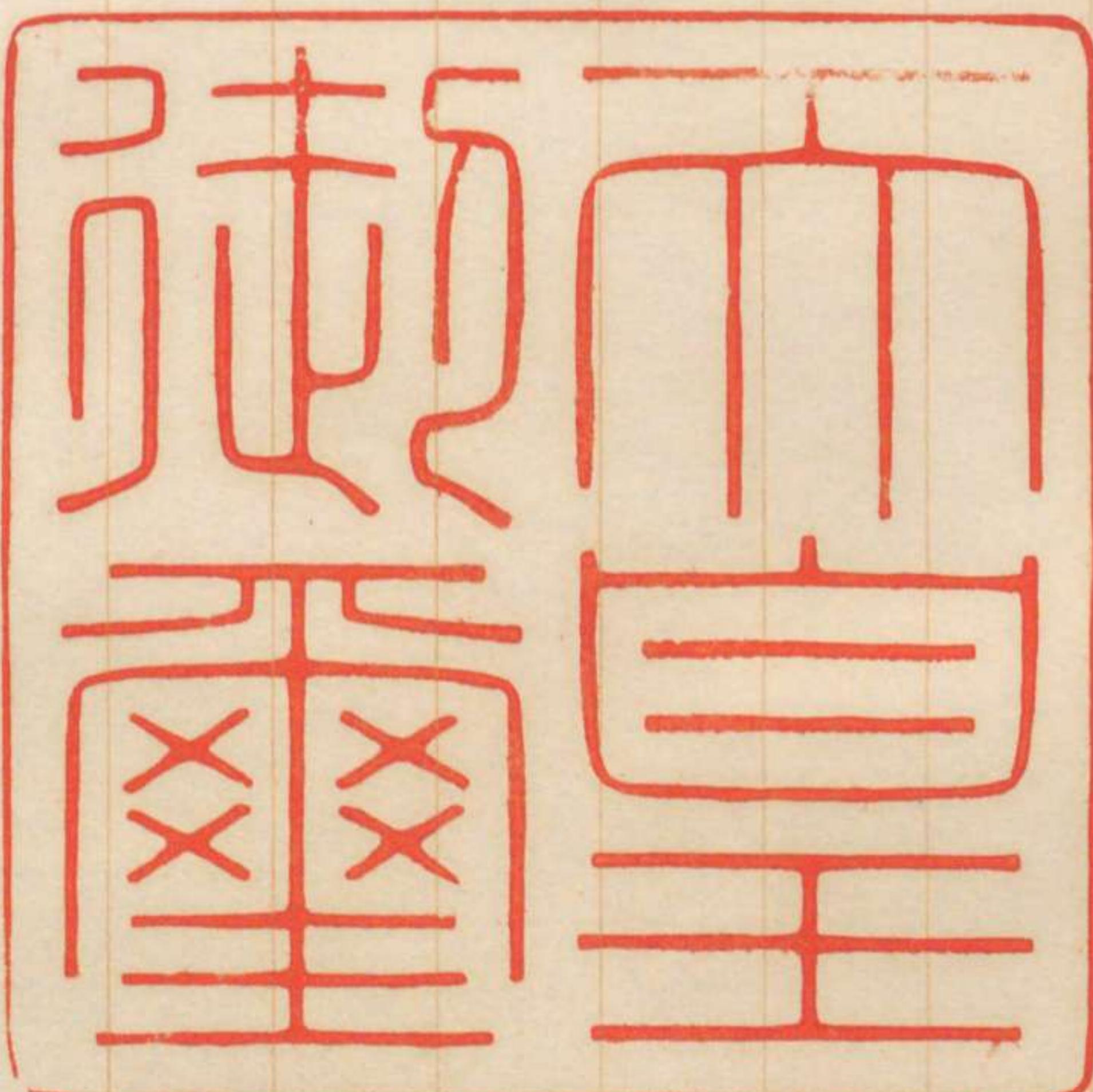
天山道

明治二十六年十二月十六日

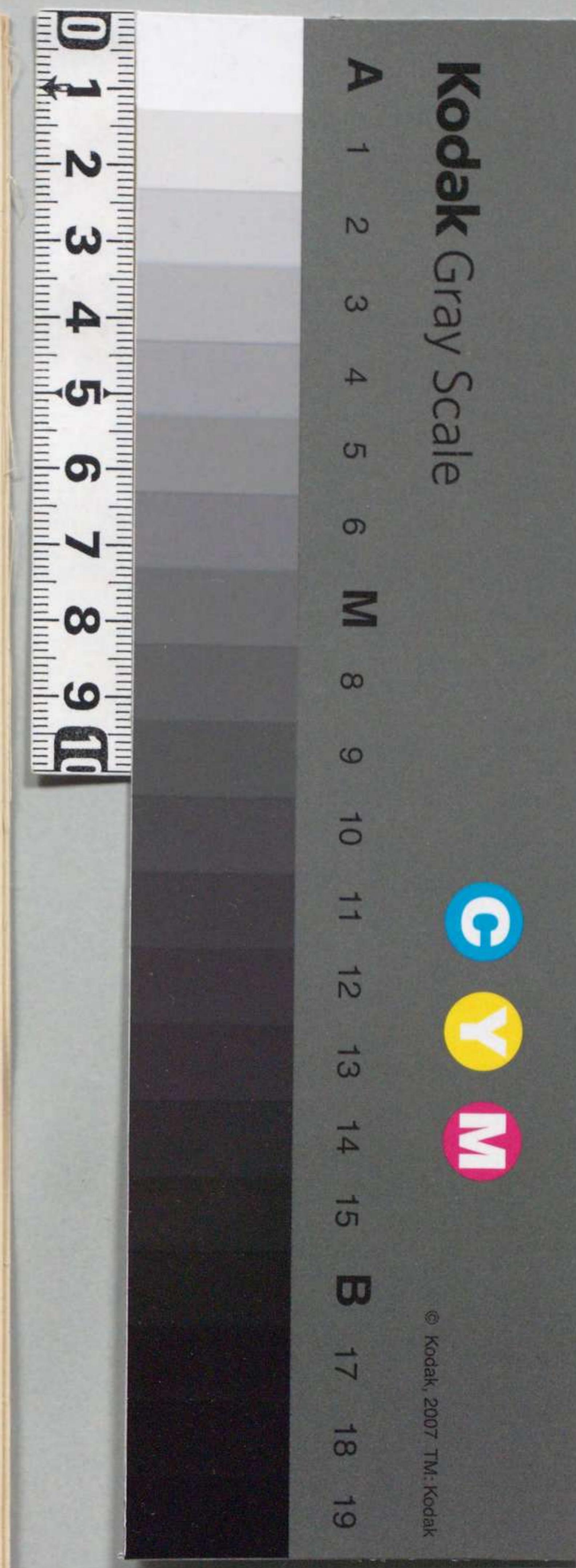
内

周

陸仁



朕砲兵方面條例改正ヲ裁可シ茲ニ
之ヲ公布セシム



陸軍大臣伯爵大山巖

勅令第二百三十九號

砲兵方面條例

第一條 砲兵方面ハ陸軍大臣ノ管理ニ
屬シ陸軍所要兵器彈薬ノ購買貯藏保
存修理支給交換及要塞備砲其ノ他之
ニ開スル砲兵事業ヲ掌ル所トス

第二條 砲兵方面ハ第一方面第二方面
トス第一方面ハ本署ヲ東京ニ置キ
第一第二第三師管及北海道ヲ管轄
シ第二方面ハ本署ヲ大阪ニ置キ第四

第五第六師管ヲ管轄ス

第三條 師團司令部屯田兵司令部並要塞所在ノ地ニ砲兵方面支署ヲ置キ其ノ他樞要ナル衛戍地ニ武庫ヲ置ク但武庫ハ支署ノ管轄トス

支署ハ四等ニ區分シ其ノ新設及等位
並武庫ノ新設ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第四條 砲兵方面本支署ニ左ノ職員ヲ

置ク

本署

本署長

砲兵大中佐

署員

砲兵少佐大中尉

軍吏

支署

支署長

砲兵中少佐大尉

署員

砲兵大中尉

軍吏

第五條 前條ニ掲タル職員ノ外本支署

ニ砲兵上等監護砲兵斜下士軍吏部下士及要塞所在地支署ニ技手ヲ置キ武

内

附

庫ニ砲兵科下士ヲ置ク但支署及武庫附下士ニ在テハ該地隊附下士ヲシテ其ノ業務ヲ兼子シムルコトヲ得

第六條 本署長ハ陸軍大臣ニ隸シ砲兵方面ノ事務ヲ總理シ管掌ノ事項ニ就テハ其ノ責ニ任ス

前項ノ外第一方面本署長ハ特ニ全國要塞ノ新設若クハ補修ニ關スル砲兵事業ノ調査ニ任ス

第七條 支署長ハ本署長ニ屬シ砲兵方

面ノ事務
掌ノ事項ニ就テ
ハ其ノ責ニ任ス

出所ノ事業ニシテ
師團屯田兵及要塞ノ兵器彈藥ノ事ニ就テハ當該師團長山田兵及要塞司令官ノ命ヲ受ク

第八條 署員軍吏ハ本署長ノ命ヲ受
ケ各事務ヲ分擔シ其責ニ任ス但要塞所在地支署附軍吏ハ工兵方面支署附ヲシテ兼務セシム

内

附

庫ニ砲兵科下士ヲ置ク但支署及武庫附下士ニ在テハ該地隊附下士ヲレテ其ノ業務ヲ兼子シムルコトヲ得

第六條 本署長ハ陸軍方面ノ事務ヲ總理シ官掌ノ事項ニ就テハ其ノ責ニ任ス
前項ノ外第一方面署長ハ特ニ全國要塞ノ新設若ク補修ニ關スル砲兵事業ノ調査ニ就キ
第七條 支署長ニ屬シ砲兵方



面ノ事務ヲ分擔シ管掌ノ事項ニ就テハ其ノ責ニ任シ且所在地砲兵工廠派出所ノ事業ヲ管掌ス
師團屯田兵及要塞ノ兵器彈藥ノ事ニ就テハ當該師團長屯田兵及要塞司令官ノ命ヲ受ク
第八條 署員軍吏ハ本支署長ノ命ヲ受ケ各事務ヲ分擔シ其ノ責ニ任ス但要塞所在地支署附軍吏ハ工兵方面支署附ヨシテ兼務セシム

第九條 武庫附下士ハ支署長ノ統轄ニ
屬スト雖トモ其ノ職務ニ就テハ尚ホ
所在地衛戍司令官ノ監督ヲ受ク

第十條 砲兵方面所管ノ兵器彈薬ハ之
ヲ分テ本須及支須トシ本須ハ本署及
一二等支署ニ貯蔵シ支須ハ各支署及
武庫ニ貯蔵ス

第十一條 砲兵方面所管ノ兵器彈薬庫
ニハ衛兵ヲ置キ尚ホ所要ニ應シ下士
又ハ定番人ヲ置クコトヲ得但場地ノ
モノトス

便宜ニ依リ衛兵ヲ要セサルトキハ本
署長ノ上申ニ依リ陸軍大臣之ヲ定ム
新ニ衛兵ヲ置クトキハ本署長又ハ支
署長ヨリ該地衛戍司令官ニ請求スル
モノトス

要塞備附ノ兵器彈藥ハ砲臺監守ヲレ
テ之ヲ監守セシム

第十二條 兵器彈藥庫附近ノ地ニ騒擾
警戒ノ事アレハ本署長又ハ支署長ヨ
リ該地衛戍司令官ニ牒告シ守衛ヲ嚴

ニスヘシ

内閣

附則

第十三條 要塞條例制定ニ至ルマテ本署長及支署長ハ其ノ所管要塞ノ防務ニ參與セシムルコトアリ